ネオセーフ WOOD・ネオセーフ抗菌 施工方法

施工の前に

1. 下地の清掃

下記の条件が満たされている事を確認して作業を行なってください。

●下地が十分に乾燥していること。

●表面は粉ふきがなく堅牢であること。

●表面に突起物、穴、段差などがなく平滑であること。

●表面にワックス、油類、塗料などが付着していないこと。

●クラックがないこと。

●張り替え施工の場合、旧床材の裏打ち材・接着剤を除去して施工してください。

2.接着剤の選定

●専用接着剤を必ず使用してください。(専用接着剤以外の接着剤を使用された場合の施工トラブルは、原因解明ができませんのでご相談には応じられません。ご注意ください。)

工法	用途	接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	接地階・洗面所等の湿気の恐れのある下地 非吸水性の下地(重ね張りなど)	タキボンド#607	床溶接棒 エポシール	エポシール タキシール#600 CLR
特殊耐水工法	大量に水を使用する場所	タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	エポシール

3.施工環境

●低温条件下では硬くなりますので、冬期に施工しにくい場合には、室温を昇温してください。

●巻き上げ施工する場合は、20R以上のR面木及びアルミジョイナー(㈱アシスト製 No.20-311S)を使用してください。
(下地の直線が出ていない場合は、巻き上げ施工できません。)

●施工中、及び施工直後に急激な温度変化(直射日光・暖房等)を与えないように養生してください。

●接着剤を使用する際は、換気を行い、引き渡しまでに数日期間を設けるなどの配慮をしてください。

施工方法

1. 下地の清掃

●砂・塵埃などを除去してください。

●下地にゴミ、異物などが入りますとフクレの原因になりますので丁寧に掃除をしてください。

2. 割り付け

●できるだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。

3. 仮敷き

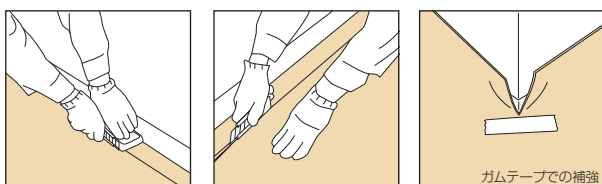
●張付け基準線に沿って、同方向に仮敷きを行ってください。

●巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。

4.壁際の裁断

4−1. 巾定規による仕上げ

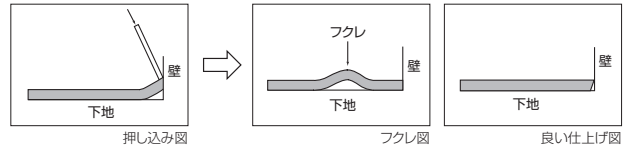
壁際・柱などの裁断は、巾定規・バースクライバーなどを用いてけがきます。そして、けがき線に沿って裏面をアンダーカットしながら裁断してください。柱を切り込んだ場合、切り込み角からの裂けを防ぐためにガムテープで補強してください。

ガムテープでの補強

4−2. トリマーによる仕上げ

●シートを接着剤で張り付けた後にトリマーで壁際を仕上げてください。

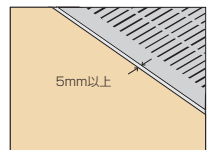
●冬期はシートが硬くなりますのでヒートガン・ガストーチで少し加熱してカットしてください。(加熱が過ぎると反り上がるため加熱が過ぎないように注意してください)

●壁際の仕上げはシートを押し込まないでください。

押し込み図　フクレ図　良い仕上げ図

4−3. グレーチング廻りの仕上げ

シール工法

●グレーチング廻りは端部処理材の仕上げ代としてて端部から5mm以上の隙間を空けてください。

●接着剤を端部まで塗布するため、シート端部の位置を下地に鉛筆などでけがいてください。

L字アングル工法

●グレーチング廻りに目地切り部が設けてあることを確認してください。

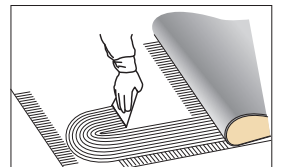
●目地切り部の巾がL字アングル抗菌埋め込み部の巾以上であることを確認してください。

●L字アングル抗菌とシートが同じ厚みになるように仕上げてください。

5. 接着剤の塗布

●タキボンド#601の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで別容器で十分に撹拌してください。
(下地上で混合すると混合不良となり、後日のフクレ・接着不良の原因となります。)

●下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。
接着剤の溜まり、欠損部があるとフクレの原因となります。

●シートの折り返し部は接着剤塗布重ねが生じない様にしてください。

標準塗布量	モルタル下地:300〜400g/㎡ 非吸水性下地:250〜350g/㎡

●クシ山が1/3以上摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。

6.オープンタイムと張り付け

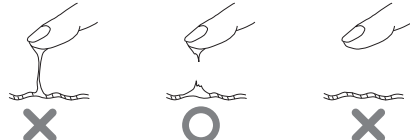
●接着剤を塗布した後にオープンタイムを取り、エアーがみ・ズレが生じないように張り付け可能時間内にシートを張り付けてください。

●オープンタイムが短いとガス膨れが生じます。

●オープンタイムを取り過ぎて接着剤が乾きすぎると接着力が低下します。

●オープンタイムの目安
(下地の材質・気温・通気などによって異なります)

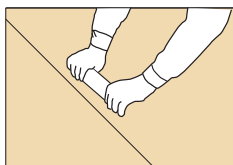
接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20〜30分	40〜50分
タキボンド#601	30〜40分	60〜70分

※タキボンド#601は5℃以下では硬化しませんので使用しないでください。
(硬化反応が進みません。)

施工方法

7. 圧着

●シート張り付け後、直ちにシゴキ圧着でエアー抜きを十分に行ない、床ローラーで圧着してください。

●壁際の巻きぐせは、接着剤に初期粘着が出た時期を見計らいヒートガン･ガストーチなどで少し加熱してハンドローラーで圧着します。

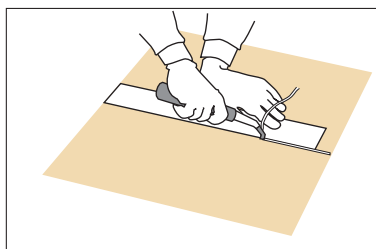
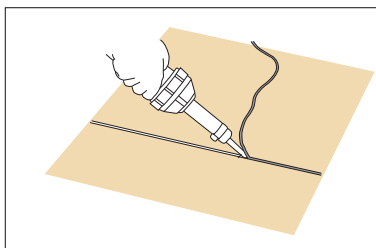
●エアー抜き･ガス膨れの点検を丁寧に行ってください。

8. 継目の裁断

●継目を溶接で仕上げる場合、継目に0.5mm程度（ナイフの刃の厚み）の隙間が生じるように調整したスクライバーなどでけがいてから切断します。

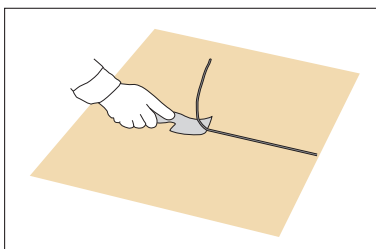
●シート端部及び継目部をハンドローラーやコーナーローラーで十分に圧着してください。

9. 継目処理

溶接工法

（1）接着剤が完全に硬化してから溝切り機等でシート厚みの2/3程度の深さでU字溝を設けてください。
シート同士を空かして溶接する方法は絶対に行わないでください。

（2）熱風溶接機（ライスター）でタキストロン床溶接棒を溶融させながら溶接ビードができる程度に溶接してください。

溶接条件の目安

設　定	アナログ	6～7
	デジタル	400～500℃
スピード	1～2m/分	

（3）タキストロン床溶接棒が冷えてから余盛部をスパトラナイフ等で平滑に仕上げてください。

シール工法

●調理器具付近などで養生が可能な場合は、10.端部処理と同様の手順でエポシールを使用することも可能です。但し、以下につきまして十分に注意してください。
※養生期間を2～3日間設けてください。
※エポシール,タキシール#600の仕上がり面は、硬化後多少の瘦せが生じます。

シーム工法

●両方の端部を正しく合わせ、継目をまずコールドシームAでシート断面を溶着させ、次にコーナーペーストでシート表面を仕上げます。
※推奨シーム材　(株)広島
- コールドシームA（シート断面用）
- コーナーペースト（表面仕上げ用）

10. 端部処理

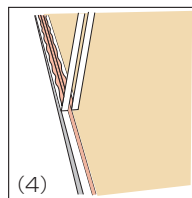
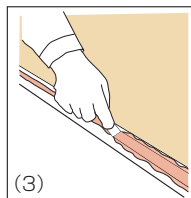
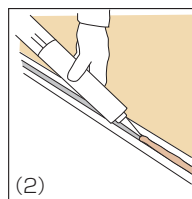
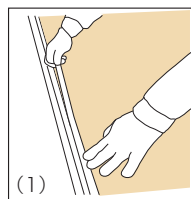
（1）仕上がりを美しくするためにマスキングテープで養生してください。

（2）気泡を巻き込まないようにシート端部及び壁際に塗布してください。巻き上げ施工の場合は、必要に応じてタキシール#600でアルミアングル部を止水してください。

（3）充填後直ちに仕上げ用ヘラで平滑に仕上げてください。

（4）ヘラ仕上げ後直ちにマスキングテープを除去してください。
※エポシール,タキシール#600の仕上がり面は、硬化後多少瘦せが生じます。
※エポシールは、水に濡れると多少白っぽく変化することがあります。

（1）

（2）

※エポシールは主剤･硬化剤･カラーマスターの混合が必要ですので、同梱の取扱説明書を参照してください。

（3）

（4）

11. 清　掃

●シート残材･接着剤容器･梱包紙等を片付けてください。

●カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

12. 養　生

●施工中及び接着剤が硬化するまでは、直射日光･暖房などの急激な温度変化を与えないでください。

●端部処理材･継目処理材が硬化するまで踏まないでください（2～3日以上）。

●土足での歩行を控え、養生シートを敷いて汚さないようにしてください。

●重量物の運搬などは、接着剤硬化後（1～2日）、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。

ご使用にあたっては安全データシート（SDS）･取扱い説明書･床材製品取扱い注意事項をご参照ください。